ボランティア活動報告書(4　号)

記入日	2015年01月14日
区分	一般隊員
氏名	大山　達也　(　24-4　)
派遣国	マラウイ
職種・指導科目	栄養士
派遣期間	2013年03月25日 ～2015年03月24日

報告書　4　号要約

2年間の活動も終わりが見えてきて、今振り返るとマラウイの人々のために何ができたのか改めて自分に問いかける日々である。栄養改善という前に、そもそも食糧が少なく、バラエティのない食習慣の中で栄養士としてどうアプローチしていくべきか。人々に新たな知識を提供することは簡単だが、それを習慣化してもらうことはとても難しいと感じている。

今回の第4号報告書では以下の内容について報告していく。
【活動の進捗状況】
院内、院外そして5S活動について課題も含め記述している。
【課題解決に向けた取り組み・進捗・結果】
NCSTという栄養改善プロジェクトに関わり、課題解決に取り組んでいるが、具体的な改善策は得られていない。その中でも外部機関との連携にて解決に糸口を模索している。
【活動事例の紹介】
好結果に繋がらなかった事例をあげ、人の意識を変えることの難しさについて記述している。
【受入国の人々の変化】
マラウイアンの日本に対する考え方を例に挙げて記述している。
【旅行】
マラウイは小さな国であるが、北部・中部・南部での言語や食習慣の違いなど、自分で感じたことについて記述している。

1.　活動の進捗状況

【院内】
以前から要望のあった糖尿病教室を開催する運びとなった。毎週金曜日に実施される糖尿病外来の際、フリップチャートを用いて糖尿病の基礎知識（症状・予防法）の提供や食事相談を行っている。本来であれば患者の血糖値を毎回測って、血糖コントロールを促したいところであるが、病院に予算がないため1年ほど前から血糖値測定キットの在庫がない。そのため、患者は自身の血糖値を知ることができず、自己管理は大きな課題である。糖尿病患者の初期診断は血液検査にて行っているが、日本のようにHbA1cが測れることもなく、血糖値のみの診断となっている。
【院外】
村へモリンガの普及活動を継続して行っているKasobaというエリアでは20m×20mの敷地でモリンガ栽培が進行中。また、NAPHAMというHIV陽性患者のサポートグループともモリン

ガガーデンを制作中。それと同時に食べ方や栄養効果の説明も行っている。新たにもう一つのエリアでもモリンガの栽培を検討中。
【5S改善】
カウンターパートを中心に、少しずつではあるが進んでいる。毎月ミーティングをして活動計画を立ててはいるが、実行されないこともしばしばあることが今後の課題である。

2. 課題解決に向けた取り組み・進捗・結果

NCST (Nutrition Care Support and Treatment)という栄養改善プロジェクトに関わっているが、患者のアセスメントやサポートが未だに不十分だと感じる。経過の良くない患者に対して何の対策もとらず、同じ処方を繰り返ことがある。また患者自身にも問題があり、栄養改善のために処方された栄養強化食品を村で売ってお金に換え、摂取していないこともあるとのこと。ここにどこまで介入できるかわからないが、村で起こっている現状をもっと知る必要があると感じている。
そこで、NAPHAM（HIV陽性者へのサポートグループ）との連携をはかり、よりコミュニティサイドへのアプローチを強化し、村の現状把握や問題解決を行っていく。

3. 活動事例の紹介（成功例・失敗例）

1）活動のプロセスにおいて用いた工夫とその効果
活動をするうえで“現状を知ること”と“現地の人との繋がり”を常に意識している。特にマラウイアンの日常生活を知ることは活動において最も大切だ。現金収入を持たない村人にとって作物栽培の時期は自分の畑仕事で忙しく、その時期に何か提案をしても優先順位としては後回しになる。また、病院などで働くスタッフにとって、私の提案は業務外のことであって見返りはない。そのような中、どのように彼らのモチベーションを上げ、維持していくかが大きな課題である。私は誉めたり、手作りのお菓子やパンをあげたりとできる限りの工夫している。
2）好結果に繋がらなかった事例
院内での患者アセスメントの向上は、残念ながら好結果に至っていない。体重計・身長計がない、医療器具の不足などハード面の問題はあるが、できる限りのことはやろうとスタッフに働きかけてきた。ヒアリングを実施して患者が入院に至った過程を記録するなど、できることはいくらでもある。しかし、すべてのスタッフへの働きかけは私ひとりには限界があり、またスタッフ自身の意識が大きく作用する。意識を変えることの難しさを身に染みて感じている。

4. 受入国の人々の変化（活動のインパクト）

1）配属先等任地の人々がボランティアの活動によって変化した事項
配属先で昼食を作る際に私が持参したスパイスを加えて一味アレンジを加えると、スタッフからは美味しいと好評である。カロンガは暑く、食欲が減退することもしばしばあるが、スパイスを用いると食欲増進するとの声が上がる。それと同時に、スタッフ間でいろいろなバラエティに富んだ食事をしようという意識も芽生えている。あるスタッフは積極的に栄養の知識を私から得て、患者へ伝えてくれるのでとても心強い。
2）配属先等任地の人々の日本や日本人に対する意識
任地の人で日本がどこにあって、どういう国なのかを知っている人は少ない。中国と混同

されることはよくあることで、たまに世界地図を用いて説明したりもする。多くの人が日本に行って働きたいと言うが、英語がそこまで通じないことや税金や家賃が高いこと、マラウイの主食シマが食べられないことを伝えると大半の人が諦めてしまう。マラウイアンにとって日本は未だに未知の国で、日本人が抱くアフリカのイメージと同じなのではないだろうか。

5. 旅行

マラウイは小さい国であるが、地域によって違いは様々である。他職種のボランティアと協力して活動を行うこともしばしばあり、その際は任地を離れて活動地域に行くことになる。そこで気候の違いによる異なる作物や食文化の違い、言語の違いとの出会いがとても良い刺激となる。マラウイに住む人々は自分の住んでいる地域しか知らないこともよくあることで、首都へ行ったことがない人やマラウイ湖を見たことない人も多い。マラウイアンも知らない秘境がまだあるのではないかと、好奇心が掻き立てられる日々である。